

令和5年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（12月末実績）
年度末確定評価

施設名 歴史と民俗の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに調査研究し、次世代に継承する。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信する。
- 3 地域や学校と連携し、埼玉の歴史と民俗に関する生涯学習や学校教育を支援する。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を支援する。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用を進めるとともに、学校や地域社会の幅広い人材と連携・協働し、開かれた博物館活動を展開する。
- 6 資料を核にして県民が集い、交流し、活動する快適空間を提供する。

2 現状分析と課題の抽出

- 【資料収集・保管・活用・次世代への継承】** 計画に基づいて実施しており今後も継続できる体制維持が必要である。
- 【収蔵資料や地域に関する調査研究】** 館の共通テーマに紐づく具体的な調査研究テーマや計画がなく、職員個人の研究活動に負っている。成果の公開も含めた調査研究テーマと計画の設定が必要である。収蔵資料の価値を掘り起こし、様々な活用へとつなげられるような調査研究が求められる。
- 【展示公開】** 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展が好評を得ており、展示内容に応じた新たな観覧者層の掘り起しに成功している。質の高い展示事業を不断に継続していくためには、以下の必要がある。①早期の計画作成と十分な準備期間の確保、②調査研究と連動した展覧会計画、③全ての常設展示での、これまでの調査研究の成果を活かした展示内容の更新。
- 【情報発信】** 館が蓄積する収蔵資料や調査研究成果、展示情報を、いつでも・どこでも・誰でも閲覧できるように、ホームページやSNSを効果的に活用したデジタルコンテンツを作成し、広く利用者に提供していく必要がある。
- 【生涯学習と学校教育の支援】** 体験メニューや学校への学習メニューを常に見直し、新たなメニューの開発や、ICTを効果的に活用した学習支援の方法を検討し実施する必要がある。
- 【県内博物館の支援】** 引き続き埼博連事務局館として県内博物館の中核的役割を担うとともに、研修会や展示及び普及事業での連携を通じた県内博物館への支援が求められる。
- 【幅広い人材との連携・協働】** 学生ボランティア(高校生・大学生)の登録が著しく少ない。より多くの世代の参加により世代間交流を促し、県民各層が幅広く参画し利用できる博物館を目指す必要がある。
- 【地域活性化を目的とした連携・協働】** ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会を中心に周辺関連施設との連携・協働の取組みを進めるとともに、文化観光や街づくりの分野などの新たな団体も視野に入れた連携・協働を模索する必要がある。
- 【快適空間の提供】** 誰もが利用しやすい施設を目指し、案内表示等の環境整備とともに、展示解説や展示手法においてもデジタル技術を活用し、多くの人が見やすく理解しやすい展示内容に更新していく必要がある。
- 【工事休館中の活動】** 休館中であっても、可能な限り出張による展示、講座、体験事業、情報発信を積極的に行う必要がある。

(* 下線箇所は次項の中期重点目標に関連する課題)

(1)全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	収蔵スペースの不足が問題で、その確保が課題。
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	2	収蔵スペースの不足が問題で、その確保が課題。
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3	
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	2	新規登録資料について早期のアーカイブ化を進めるとともに、画像貼付のない資料が存在するため、順次画像掲載を進めていく。

常設展示	①	展示設備等を適宜点検しているか	3	
	②	常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③	展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④	展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤	アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	2	可能な範囲で実施しているが、アンケートの要望に全て応えることは難しい。
	⑥	日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	今後は音声による外国語対応のニーズが高まると思われるが、自動翻訳の精度の低さ、翻訳費用、メンテナンスなどが課題。
	⑦	観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	①	誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	②	アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③	来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④	学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容	達成度	課題等
情報発信	① SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	② 資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③ 定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④ デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連携	① ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	② ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③ 外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④ 地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤ 地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	

調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	2	取り組んでいるが、職員個々の研究に負うところが大きい。
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	2	取り組んでいるが、館の取組みとしては不十分。職員のスキルアップが課題。
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	

施設の 利 活 用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 歴史と民俗の博物館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容	達成度	課題等
特別展・企画展・常設展の実施	① 中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	2	中・長期的な展示計画のための調査研究体制の整備が課題。
	② 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	3	
	③ 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	2	中・長期的な展示計画のための調査研究体制の整備が課題。
	④ 全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	3	
	⑤ 展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか * アンケートでの満足度 列島展82.5% 銘仙展96.4% 縄文展91.2%	3	
中核的施設としての活動	① 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	3	
	② 県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	3	
	③ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	3	
	④ 県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	3	

ゆめ・体験ひろばの運営	①	地域の文化資源を活用し、埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	3	
	②	常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	3	
	③	世代間交流ができるプログラムを提供しているか	3	
	④	地域と連携し、多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	2	博物館クルー（地域文化に根ざした専門的技術を保持する団体）とは連携しているが、地域との連携は不十分。地元さいたま市と連携した取組みが課題。
	⑤	学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	3	
伝統文化の記録・公開・継承	①	県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	3	
	②	展示や公演をととして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	3	
	③	県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	3	
	④	伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	3	

II 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

- 1 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組(R5-9)
- 2 ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組(R5-7)
- 3 GIGAスクール構想に対応し、ICTを効果的に活用した学校連携の強化(R5-7)
- 4 誰もが利用しやすく理解しやすい館内・展示環境実現の取組(R5-7)

【取組み】

- 1 ①研究テーマと展示公開までを含めた年次計画の策定、実施に向けたチームの編成(R5 年次計画の策定・研究チームの立上げ、R5 計画に基づく調査研究の実施、R8 展示公開)
- 2 ①工事休館中のHPやSNSを活用した情報発信の取組(R5 実施)
②ホームページ「スタッフブログ」の充実(掲載本数:R5 10本(休館中を除く)、R6 20本、R7 20本)
③館有資料に関するデジタルコンテンツ(YouTube動画)の制作と公開(R5～ 実施開始)
- 3 ①第4学年社会科に対応したオンライン授業の実施
(R5 館内ICT環境整備、学校との協力体制構築、ワーキンググループ設置・検討、R6 実施)
②タブレット持参の社会科見学に対応した2次元バーコード読み取りによる展示解説の設置
(R5 WGによる検討・一部試行 R6 展示解説の制作開始 R7 実施)
- 4 ①館内の案内表示等の刷新(R5 実施)
②展示キャプション・パネルの刷新(R5 実施)
③デジタルを活用した展示手法の実施(R5・6 検討・試行、R7 実施)

施設名 歴史と民俗の博物館

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1-6 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	162,820	人	40.0%	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				65,207	人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	17,060	人	達成	基準値: 36,289人 目標参考値: 36,289人 目標値 $36,290 \times 0.47(*1) \approx 17,056$ 人
				22,372	人		
3	使命1-6 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	309	人	達成	(*2) 基準値: 304人 目標参考値: 309人
				444	人		
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	473,230	件	84.2%	基準値: 473,228件 目標参考値: 473,228件
				398,542	件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	200	件	達成	R4実績199件から切り上げ
				296	件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	12,672,000	円	50.7%	* 当該年度予算計上額
				6,430,440	円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命2 展示	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	10,600	人	96.1%	基準値: 22,534人 目標参考値: 22,534人 目標値 $22,540 \times 0.47(*3) = 10,594$
				10,185	人		
2	使命3・5 学校連携	出前授業	出前授業の実施校数	40	校	117.5%	基準値: 40校 目標参考値: 64校
				47	校		
3	使命3・5 学校連携	団体利用	学校団体の博物館利用校数	61	校	達成	基準値: 83校 目標参考値: 83校 目標値 $90 \times 0.68(*4) = 61.2$
				68	校		
4	使命2・4 情報発信・活用	情報発信	ブログの掲載本数	10	本	達成	中期重点目標2による取組み
				39	本		

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数

※ 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

* 1・3 R5年度の工事休館を除く開館日数比率 148日÷313日=0.47

* 2 (年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数(工事休館中のアウトリーチは除く)

* 4 R3年度実績を踏まえた実施率 59校÷86校=0.68(工事休館期間をR3に当てはめた時にその期間外に対応した校数59校)

3 取り組みの概要

施設名 歴史と民俗の博物館

【令和5年度中期重点目標に対する取り組み】

- 1 ①研究テーマと展示公開までを含めた年次計画の策定、実施に向けたチームの編成
 - ・近世・近代絵画コレクションの調査・研究事業を近代美術館と共同で立ち上げた。
- 2 ①工事休館中のHPやSNSを活用した情報発信の取組
 - ・工事休館中(～10月13日)は、プロジェクトチームとして情報発信チームを立ち上げ、ホームページ、SNS、YouTubeを利用して積極的に情報発信した。
 - ②ホームページ「スタッフブログ」の充実
 - ・「工事休館中ブログ」26本(工事休館中)、「スタッフブログ」15本
 - ③館有資料に関するデジタルコンテンツ(YouTube動画)の制作と公開
 - ・「れきみんクイズ」36回更新(工事休館中)
 - ・YouTube動画 10タイトル12本の制作と公開(工事休館中)
- 3 ①第4学年社会科に対応したオンライン授業の実施
 - ・試行として3校6クラスに対しオンライン授業を実施した。
 - ②タブレット持参の社会科見学に対応した2次元バーコード読み取りによる展示解説の設置
 - ・昔の道具の使用法などを解説する動画を作成中。将来的に展示資料とリンクさせていく。
- 4 ①館内の案内表示等の刷新
 - ・「埼玉県立歴史と民俗の博物館来館者向けサイン類(掲示物)作成の基本方針」を策定
 - ②展示キャプション・パネルの刷新
 - ・改修後再開館に合わせて常設展示室2室、10室ほかの解説パネルを刷新した。
 - ③デジタルを活用した展示手法の実施
 - ・特別展「縄文コードをひもとく」において音声ガイドを試験的に導入

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

【工事休館中の取組み】

・令和5年度当初から10月13日まで施設改修工事のため臨時休館となった。休館中は、館内に3つのプロジェクトチーム(イベント開催、情報発信、館内環境整備)を設置し、担当を横断した組織による事業を展開した。

・出張展示、出張講座、出張ものづくり体験を中心に他施設へ出向いて事業を展開し、併せて当館の知名度アップのため、県庁をはじめ県立図書館で館の紹介パネル展示を行った。

・休館中の情報発信では、休館中ブログ、X(旧ツイッター)による情報発信、デジタルコンテンツとして「れきみんクイズ」、資料紹介動画「学芸員のイッピン」、「れきみんカレンダー」等を作成・公開した。

・環境整備としては、館内案内掲示のルールづくりや休館中でしかできない場所の清掃等を行った。

【利用者・入館者・展示・普及事業等】

・休館中においては、深谷市の渋沢栄一記念館で開催した出張展示(14,956人観覧)、県立久喜図書館をはじめ県内3箇所の会場で開催した出張講座(5回、のべ304人参加)、県立他館を会場に開催した出張ものづくり体験(5回、のべ192人参加)等の館外事業を積極的に展開した。休館中における館外事業への観覧及び参加者数は17,698人であり、休館中であっても当館の認知度を高める効果があったものと思われる。特に出張展示「書画から見よう栄一と惇忠」は渋沢ゆかりの地で14,956人の観覧者があったことは、地域の活性化にも貢献できたと考えられる。

・年間入館者数とアウトリーチ参加者数は、65,207人(目標値162,820人)、常設展示観覧者数は22,372人(目標値17,060人)、特別展・企画展観覧者数は10,185人(目標値10,600人)である。1日当たりの利用者数は444人(目標値309人)で目標を達成した。

・再開館後、11月14日から特別展「縄文コードをひもとく」を開催、7,956人(1月14日までの会期中)が観覧した。関連事業として県内の8か所の博物館と連携して「縄文カード」を作成・配布し、連携館への誘導に成功し、コアな客層から好評を得た(通常カード29,686枚、特典カード939枚配布)。

・ゆめ・体験ひろばの通常体験メニューや特別体験メニューとその運営方法は、新型コロナの影響前の状況にほぼ戻すことができた。

【調査研究・資料の保存管理】

・中期重点目標の「研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組み」に関しては、近世・近代絵画コレクションを研究テーマとして、近代美術館とも連携して調査研究をスタートした。また、文化遺産調査活用事業として、県内の無形民俗文化財調査を継続して実施している。今後組織的な調査研究の成果として特別展・企画展での公開を目指すには、複数の分野が参画できる研究テーマの設定や体制整備が必要である。また、収蔵資料の調査研究については、職員の専門を生かした紀要等への資料紹介や、収蔵資料を動画で紹介する「学芸員のイッピン」を5本作成し公開した。工事休館中に限らず、今後も少しずつ継続的に作成・公開していく必要がある。また、その認知度を高めていくことが課題である。

・IPM(総合的有害生物管理)に関連した資料及び収蔵庫等の定期清掃や資料点検は計画的に実施され、今後も継続できる体制維持が必要である。また、改修工事中の収蔵資料の保存管理やそれに伴う施設・設備の清掃や点検などを適宜実施できた。改修工事の内容も建築・設備等の改修を基本に、展示室の空調、照明、ガラス等の更新が行われ、より展示資料の保存・公開に適した改修がなされた。

【学校利用】

・出前授業は休館期間中も実施し、47校(目標40校)で実施した。出前授業に関連したオンライン授業の準備も進め、試行的に3校6クラスで実施した。中期重点目標の「ICTを利用した学校連携の強化」に基づくものとして、また、学校のニーズに応じた選択肢を増やす意味でも評価できる。

・学校の校外学習に係る学校団体受入れ校数は、68校(目標61校)で目標を達成した。10月、11月に集中する傾向があり、受け入れ側の体制や学校との調整方法を検討していく必要がある。

【情報発信】

・ホームページアクセス数は、目標達成率84.2%である。

・メディア掲載件数は、目標値を大きく超えた(目標200件に対して296件、148%)。これは、県ホームページのイベントカレンダーや外部イベントサイトへの積極的な掲載、常設展示の展示替えに関するきめ細かな情報発信によるもので、今後も効果的な外部イベントサイトの利用や地道な情報発信をSNSの利用と並行して実施していく必要がある。

・ブログ更新件数は、目標10件に対して39件と大きく上回った。工事休館中の「工事休館中ブログ」は26件更新しており、組織的な取り組みと積極的な掲載が評価できる。

【地域連携・活性化】

- ・ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会(MVO)を中心に周辺関連施設と連携・協働した事業を実施した(クイズラリー、ウォーキングツアーほか)。また、埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム「次世代につながる大宮公園検討グループ」のイベントにMVOとして積極的に参加し、地域の活性化に貢献できた(ブース出展2件、会場提供1件ほか)。
- ・展示関連事業としても、「出張展示in深谷」や「縄文カード」による他館との連携によって連携他館の活性化につながった。

(2) 課題と対応の方向

- ①新型コロナウイルス感染症が5類となり、数年間の各種制限が緩和され人々の生活スタイルが新型コロナ前に戻りつつある。今後インバウンド需要も見込まれる中で、当館の認知度をより高めて来館者増を目指す必要がある。
- ②今年度組織的な調査研究と展示に関連付ける取組みが始まったが、長期的にみれば継続的に複数のテーマを設定した組織的な調査研究体制の整備が必要である。
- ③今年度の工事休館中は情報発信について組織的、計画的に取り組めたが、再開館後においては、同様の水準での情報発信は難しいと思われる。より効果的で効率的な情報発信のあり方と方法を模索していく必要がある。
- ④学校の校外学習における当館の利用は時期的な偏りがあることや、出前授業は要望数が多くなっている。限られた職員で利用者のニーズにどう適切に応えていくか体験ボランティアとの協働やオンライン授業の実施も含め検討していく必要がある。

2 外部評価委員等によるコメント

(A委員コメント)

- ・工事休館期間中、積極的な情報発信や出張展示・講座等の開催により、博物館の認知度の向上や地域の活性化に貢献したことは、変則的な状況の中での努力を物語る。それが休館期間中しかできない清掃等の実施など、館内の環境改善と並行してなされた点は、なお良かったと思う。再開館後は、コロナ収束後の体験メニューや地域連携事業などの業務の通常化がある中で、満足度の高い特別展や、展示環境を向上させた常設展の更新などによって多くの観覧者を得られたことも高評価に値しよう。
- ・Ⅲ(2)に「今後インバウンド需要が見込まれる」とあるが、取り込むためには策が必要である。大宮公園や氷川神社と一体性を強調した関係方面への訴求が要求される。認知度を高めて来館を促す努力は勿論必要であるが、来館後の満足度が低ければ意味は少ない。
- ・Ⅰ-3(1)常設展示⑥は自己評価が2で「自動翻訳の精度の低さ、翻訳費用、メンテナンスなどが課題」とあるが、まずは展示品の名称や時代など最低限の情報を提供するところから初めては如何か。海外の博物館でも、せいぜいキャプションやコーナーパネルに母国語と英語ぐらいのところが多い。
- ・今回の出張展示や出張講座を契機に、県南部以外の地域との連携を深めてゆくことも県立の施設としては重要なのではないか。(2)館別独自項目 ゆめ・体験広場の運営で「地元さいたま市との連携」が課題として掲げられているが、広く全県域との連携を考えていただけると宜しいかと考える。
- ・Ⅰ-3(1)資料収集の自己評価は2で「収蔵スペースの不足が問題で、その確保」が課題に挙げられている。どの博物館も抱える共通の課題であるが、近年では収蔵品の廃棄を可とする規定を作る自治体や、館蔵品を要・不要に選別し不要とされた品の売却を奨励する「先進博物館(リーディング・ミュージアム)」構想などが現れてきている。しかし館蔵品は専門職である学芸員の確かな目を経て未来に保存してゆく価値を認められた県民の財産である。その廃棄や売却は県民への背信行為にほかならない。収蔵スペースの不足が、このような近年の動向を是とする方向に進むことのないよう切にお願いしたい。

(B委員コメント)

- ・特別展、企画展ともに最新の学術情報を反映させた展示を行い、積極的に広報活動を進める努力をしている点について、高く評価できる。
- ・WEB(ブログ、SNS等)の更新頻度も高く、活用について十分努力していることもうかがえるが、認知度についてはさらなる向上の余地を多く残していると感じる。特にYouTubeはユーザーの多いメディアであり、関心を持つ可能性がある層にいつそうリーチしていきたい。

・普及事業としては特に高校・大学との連携活動を推進してはどうかと感じる。来館の少ない年代である一方で、インターンシップやボランティアに関心が高い層も多く、学生が親しめる博物館にすることも長期的に欠かせない視点であろう。

・子育て世代へのアプローチについてももっと積極的に行ってほしい。大宮公園は子連れの市民が多く集まる場であるから、彼らにとって魅力的な展示(特に常設の遊具や体験型の展示)を増やすとよいと感じる。体験メニューも定期的にアップデートすることで、リピーターを多く獲得できるだろう。

・また、外国人向けの日本ならではの体験ができる企画を増やし、多言語化することで、増加中のインバウンドツーリストへの訴求もできそうである。

(C委員コメント)

・県立博物館として「埼玉ならではの価値」を発信する展示については、毎回実施されている展示観覧者アンケートの結果にも示されている通り、十分な内容と成果をうみだしていると評価できる。特別展・企画展とも、それぞれリピーターも多いと聞いているので、苦労も多いこととは思われるが、今後も注目を集められる展示開催に大いに期待するところである。

・目標値と達成値については、全館共通項目・館別独自項目とも、工事休館の期間があったにもかかわらず、十分評価できる達成率であるといえる。とくに、ブログ掲載本数の39本は、評価に値する。休館中のブログは、館への関心を持ち続けてもらうという効果大であったと考えられる。個人的には、【#休館中のお仕事】は、興味深いブログとの感想を持った。継続しての情報発信が望まれる。HP掲載の「前川建築のすすめ」も、興味深く、あらためて展示見学以外の目的をもって訪問したいと思わせる内容である。

・特別展にあわせてのクリアファイル作成などに尽力いただいているが、他県の県立博物館では、オリジナルグッズの作成・販売にいろいろと工夫が凝らされている昨今、是非とも、さらなる品数増加(収蔵品の絵葉書・一筆箋など)を検討していただきたい。オリジナルグッズ購入が来館の目的となっている人々も、少なからずいる模様と聞き及ぶ。

・社会のデジタル化にともない、今後もデジタル活用を取り入れた展示方法が求められていくなか、文化財としての古き良き建物のなかに、最新の展示方法が満載、といった県の文化の中心として位置し続ける中央博物館であってほしいと希望する。